

特集2 子どもたちの笑顔と未来のために

子どもの健全育成に貢献する活動を全国で展開しています。

明治安田生命は、お客さまの「家族への思い」を支えることが生命保険会社ならではの社会貢献と考え、子どもの健全育成への貢献を重点分野に位置付けています。当社が、未来を支える子どもたちのために、地域社会やNPOと連携して全国で実施している社会貢献活動をご紹介します。

※開催実績は、2009年4月～2010年9月までのものです。

海の環境工作教室

開催実績
全国6カ所



海の環境工作教室

地域安全マップづくり教室

未来を奏でる教室

ふれあいコンサート

未来を奏でる教室

開催実績
全国7カ所



開催実績
全国14カ所

地域安全マップづくり教室



開催実績
全国12カ所

ふれあいコンサート

海の環境工作教室

自然の大切さや、自然を守る意義を 楽しみながら感じる環境教室

従業員がボランティアで各地の海岸清掃を実施し、収集した貝殻やガラス、海藻、ゴミなどの漂着物を使ってアート作品を制作する「海の環境工作教室」を全国で開催しています。この工作教室は、NPO日本渚の美術協会の協力を得て、2007年にスタートしたもので、子どもたちが自然に対する思いを育む場として、従業員とその家族などに参加を呼びかけています。

2010年5月には静岡県の三保海岸において、従業員とその家族、お客さまなど約150人がビーチクリーンを実施し、ゴミ袋65袋分、約120kgのゴミを収集しました。参加した子どもたちは、いきいきとした様子で海岸清掃や工作教室に取り組み、環境保全の重要性を楽しみながら学ぶことができました。

VOICE



思いやりの心が育まれ、「海を守る仲間」が増えることを願っています

NPO法人日本渚の美術協会
代表
本間 清氏

今、海がゴミの最終到達地になったようで「海の悲鳴」を感じます。私たちは「美しい海を次世代に引き継ぐために」海岸清掃とともに、漂着物を利用したアート創作を手法として、海の美化啓発活動をしています。この活動を通じて、海に対する優しい思いやりの心が育まれ、「海を守る仲間」が増えてくれることを願っています。

なお、全国各地の工作教室で制作された全作品の写真パネルおよび優秀作品に選ばれた作品を展示する「シーボーンアート展」も実施しています。

「海の環境工作教室」の内容



1. 海岸をきれいに 清掃しながら、工作の 材料を集めます。

海岸に落ちている空き缶やペットボトルなどの漂着物を収集。ビーチクリーン活動は、環境保護に対する意識を高めるきっかけとなります。

2. 集めた材料をもとに、 アート作品をつくります。

海岸で拾ったゴミや貝殻などを材料に、親子で楽しみながら「私の好きな生き物」をテーマに作品をつくります。子どもたちの柔軟な発想が、個性的な作品を生み出します。



3. 完成した作品は、 各自が持ち帰ります。

参加した子どもたちが教室の内容を友達に話し、自然の大切さを共有することで、環境保全の輪がひろがっていきます。



地域安全マップづくり教室

「安全マップ」づくりを通じて 子どもたちの危険を回避する力を育む

「子どもの命・安全を守る」地域貢献活動の一環として、2008年から「地域安全マップづくり教室」を開催しています。

「地域安全マップづくり」は、「誰が(どういう人が)」犯罪を行なうかではなく、「どういう場所で」犯罪が行なわれるかを見極めることにより、子どもたちが自ら未来の危険を予知・回避できるようにするための教育プログラムです。

当社では、考案者の立正大学小宮教授を講師に招き、全国の支社等で地域の小学生(およびその保護者)を対象に開催しており、2009年度は10都市、2010年度は9月までに4都市で実施しています。

なお、2010年度からは新たに、保護者の方々に、過去の事例を検証しながら、地域安全マップづくりの趣旨と意義を理解していただく場を設け、親と子の地域安全マップづくり教室としても運営しています。



フィールドワークを通じて危険な場所を発見

VOICE



危険な場所について
子どもでもわかりやすく
知ることができました

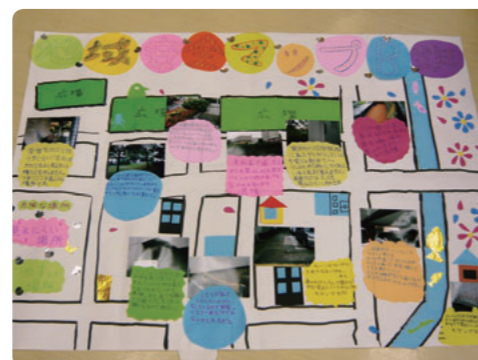
岐阜県各務原市在住
大塚 知子さん・詩織ちゃん(8歳) 親子

子どもの安全対策という、どうしても「いざという時どうするか」を考えがちでしたが、「そもそも犯罪を起こさせない」というマップづくりの趣旨はとてもし新しい視点だと感じました。

危険な場所のキーワードは簡潔でわかりやすく、子どもたちにも覚えやすく効果的だと思います。親子ともども、危険に対する意識が高まりよい機会になりました。



当社ホームページ(CSRウェブサイト)に、ゲーム感覚で遊びながら「危険な場所の見極め方」を学べるコンテンツ「まちの安全調査隊!」を設けました。
<http://www.meijiyasuda.co.jp/csr/>



完成した地域安全マップ

COLUMN

地域安全マップづくり教室が 「キッズデザイン賞(優秀賞)」を受賞

地域安全マップづくり教室が、NPOキッズデザイン協議会主催、経済産業省後援による「第4回キッズデザイン賞」において、「優秀賞(キッズセーフティ部門)キッズデザイン協議会会長賞」を受賞しました。今回の受賞は、「安全マップづくりという行為を通じて、見過ごしがちな自分の住む街の細部(危険)を知ることができる意義のある活動であり、さまざまな社会学習への展開の可能性を感じさせ」と評価をいただいたものです。

キッズデザイン賞受賞



KIDS DESIGN
AWARD 2010



1.危険な場所とはどういう場所か、 考え方を学びます。

「入りやすい」「見えにくい」という危険な場所の2つのキーワードを使って、わかりやすく教えます。

3.調査した場所の写真やコメントを 書き添えてマップをつくります。

どうして危険だったのかを子ども自身が振り返り、復習しながら、協力してマップを完成させます。



「地域安全マップづくり教室」の内容



2.フィールドワークを通じて、 危険な場所を探します。

実際に街を歩き、危険な場所の見極め方を体験により身につけます。

4.勉強になったことや感想を 発表します。

完成した地域安全マップを使って、班ごとにみんなの前で勉強になったことを発表します。



子どもの命・安全を守る活動

子どもたちが登下校中に事件に遭う事態を防ぐために、地域で営業活動をしている当社としてできることはないだろうか。その思いから、明治安田生命労働組合と連携してはじめた活動が「子どもの命・安全を守る」地域貢献活動です。

MYライフプランアドバイザーが、営業活動の際に「防犯プレート」「防犯笛」を携行するほか、営業所に「こども110番」を設置するなど、各種の地域防犯に向けた取組みを実施しています。「地域安全マップづくり教室」も、この活動の一環で開催しています。



ネームタッグ
© Mercis bv

防犯笛

VOICE

労使一体による地域への貢献を通じて社会の一員としての責任を果たしていきたいと考えています

明治安田生命労働組合本部 中央執行委員(組織広報部長)
福谷 充広

この活動は「子どもの命・安全を守るために地域への貢献を」という趣旨で、2006年6月以降、会社と明治安田生命労働組合が一体となって推進しているものです。契機は当組合が上部団体からの協力依頼を受けたものですが、子どもたちの登下校時に地域で営業活動を行なう私たちにふさわしい貢献活動と考えています。

今後、当組合としても、地域への貢献を通じて社会の一員としての責任を果たせるよう積極的に推進・支援していきたいと考えています。

未来を奏でる教室

音楽授業を通じて、音楽の楽しみ、喜びを伝える

2001年から全国各地で開催している「愛と平和のチャリティーコンサート」と連動する形で、コンサートの音楽監督である三枝成彰氏による音楽授業「未来を奏でる教室」を2009年より開催地近郊の小・中学校で実施しています。



チャリティーコンサートの様子

クラシック音楽の特徴や歴史を解説しながら展開する授業は、子どもたちの音楽そのものに対する興味・関心を引き起こす内容となっています。

コンサート会場にてチャリティー募金を実施しており、2010年はこれまでに3会場で1,351,981円の募金が集まりました。この募金は、(社)日本フィランソピー協会を通じて、子どもの健全育成を目的に活動する全国のNPO団体などへ寄付しています。



「未来を奏でる教室」の様子

ふれあいコンサート

障がいのある子どもたちに生の音楽を届けたい

日頃コンサートに行く機会の少ない障がいのある子どもたちに、「生の音楽」を届けるために、歌手の鳥塚しげきさん(ザ・ワイルドワンズ)による「ふれあいコンサート」を、全国の特別支援学校などで開催しています。

このコンサートは、従業員の募金をもとに、会



ふれあいコンサートの様子

場設営から音響機器の設置まで、すべて従業員によって運営されています。2010年は近畿、四国地方の5つの特別支援学校で開催し、1984年の活動開始以来これまでに訪問した学校は、115校となりました。

VOICE



子どもたちの笑顔のために歌い続けます

歌手 鳥塚 しげき 氏

私は音楽の力を信じています。音楽には素晴らしい力があります。悲しい時には慰めてくれ、楽しい時には心をウキウキさせてくれます。私は子どもたちを楽しませるだけでなく、音楽の持つ力で子どもたちに勇気や希望を持ってもらえるよう、この27年間コンサートを続けてきました。私のパフォーマンスに子どもたちは満面の笑みで応えてくれます。これから子どもたちの笑顔のために歌い続けます。

安心して赤ちゃんを産める環境づくりをめざして「助産師育成」を応援

Hello! Baby 奨学金プログラム

少子化が進展するなか、産婦人科・産科医師の減少、助産師の不足など産科医療スタッフの確保が大きな課題となっています。

こうしたなか、当社は、社団法人日本助産師会が実施する、助産師をめざす人のための奨学金制度の趣旨に賛同し、「Hello! Baby 奨学金プログラム」として、こども保険の保有契約件数*に応じた金額を、毎年、当社経費の中から寄付することとし、2010年度は、助産師学生16人の奨学金に相当する寄付を行ないました。

この奨学金を通じて、ひとりでも多くの助産師が



誕生し、妊婦の方がより安心して安全なお産ができる環境づくりに貢献していきたいと考えています。

全国の新小学一年生の交通安全を願って「黄色いワッペン」を贈呈

新小学一年生を対象とした「黄色いワッペン」の贈呈事業を、1965年から全国で実施しています。ワッペンには、毎年の交通安全スローガン子ども部門の最優秀作が掲載され、子どもたちの交通安全意識を育むとともに、保護者やドライバーの方々の注意を喚起しています。

2010年春には、全国約115万人の新一年生に「黄色いワッペン」を贈呈、これまでに配られたワッペンは累計で約5,661万枚となりました。



共同実施団体:みずほフィナンシャルグループ、(株)損害保険ジャパン、第一生命保険(株)

「黄色いワッペン」

Web 当社の社会貢献活動は、ウェブサイトでもご覧いただけます
<http://www.meijiyasuda.co.jp/profile/society/>

VOICE



助産師不足が深刻な現在、このプログラムは、学生の福音となっています

社団法人 日本助産師会 専務理事 岡本 喜代子 氏

明治時代から産婆として地域の母子保健に貢献してきた助産師は、昭和26年の7万7千人から現在は2万7千人と大きく減少しましたが、一方で育児不安から産後うつになる人や子ども虐待の増加など、出産・子育てを取り巻く環境は、助産師を必要としています。

産科医師不足が社会問題になっていますが、助産師不足も深刻です。こうしたなか、助産師学生への修学支援制度は重要であり、貴社のプログラムは勉学に専念する助産師学生の福音となっています。

※対象の保険商品は、**こどもほけん**のほか、すべての「こども保険」の保有契約件数を対象として、寄付を行ないます。

子どもの療育・育成相談を受けています

子どもと家族のご相談は年間2,000回

(財) 明治安田こころの健康財団では、子どもの健全な育成に向けた相談*を受けています。

「子ども療育相談」では自閉症をはじめとする発達障がいのある子どもの療育について、「すこやか育成相談」では成長過程での心理的なつまづきが生じたとき等の対応について、各々、専門の臨床心理士・心理相談員が相談を受け、一人ひとりに応じた提案等を行なっています。ご相談数は年間延べ2,000回にのぼっています。



* 相談業務は有料です。詳しくは明治安田こころの健康財団のホームページをご覧ください。